

第5回植田久男書展 記録集



会期：平成22年11月2日（火）～7日（日）

会場：アートワークスギャラリー（水戸）

「ご来場の皆様へ」

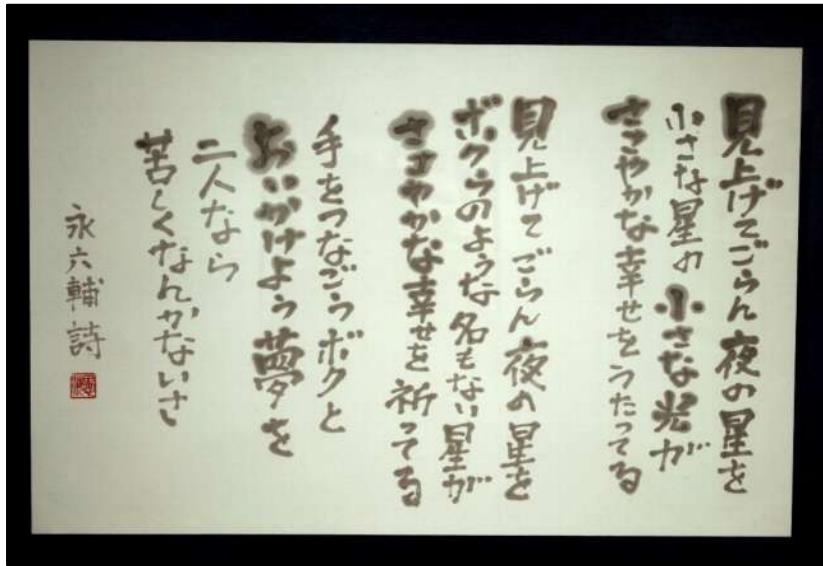
このたびはお忙しい中、遠路ご来場いただき誠にありがとうございます。

今回は「いのち」をテーマといたしました。深く大きな課題であり、たやすく理解することも表現することもできないことを実感しています。書の制作を通して生命の尊さや宇宙につながる神秘的な世界を知る機会となりました。

まだまだ拙い技量と経験ゆえ稚拙な書ではありません。ご高覧賜れば幸甚に存じます。

平成二十二年十一月 植田愚海

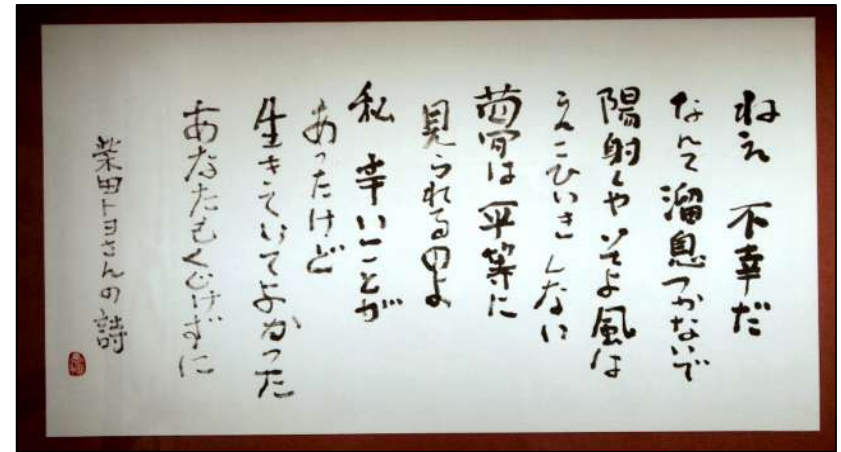




全紙 1/3

見上げてごらん夜の星を
 永 六輔詩

静かなしずかな願いが
 伝わってきます。
 夜空の星に向けて
 胸中の人と
 懐かしい想い出を
 語り合つようです。



半切 1/2

くじけないで
 柴田トヨさんの詩

こんなに素直な詩があつた
 のかあ…
 と、そして年齢にも感動します。
 誰でも詩人になれる！
 じゃ僕もなれるか？
 と妻に聞く
 「なれるわよ！」と。
 内心喜ぶが「でも有名になれるか、
 どうかは別よ！」だって。
 そりゃそうだが、
 詩は自分の心の
 日記帳して書いてゆきたい。

いのち

画数が少ないひらがなは、線に力がこもらないと紙面を滑走してしまいます。思いだけが先走って筆先が付いてこない。まだ筆との一体感が足りないようです。この作品は、夏の頃から書き始めて、断続的に期間を置きながら三回チャレンジして、やっと落ち着いたかなあと半分あきらめの境地…。「命懸け」とは、とても、ユカナイ。



全紙



半切 1/2

対峙

一作くらいは、読みづらい文字もあつてよいか…と、あえて筆をつぶしながら自作の詩を書きました。愚作のカモフラージュです。読み下しは次の通り

断崖絶壁

奈落の底のぞく 後はない
恐怖 死は大きな問いかけ



全紙

生業（なりわい）

ちよつと古臭い言葉ですが、書いてみたくなりしました。

意味は

「暮らしを立てるための仕事、家業」ですが、神事としての意味も。

五穀が生るように務めるわざ。

農作。

「農（なりわい）は天下の大きな本なり」

瞬

過ぎた五十年は早かった…、しかし、これからの十年は長いか、短いか？

自らの人生を振り返って、あっと言つ「瞬く間」の出来事だった…

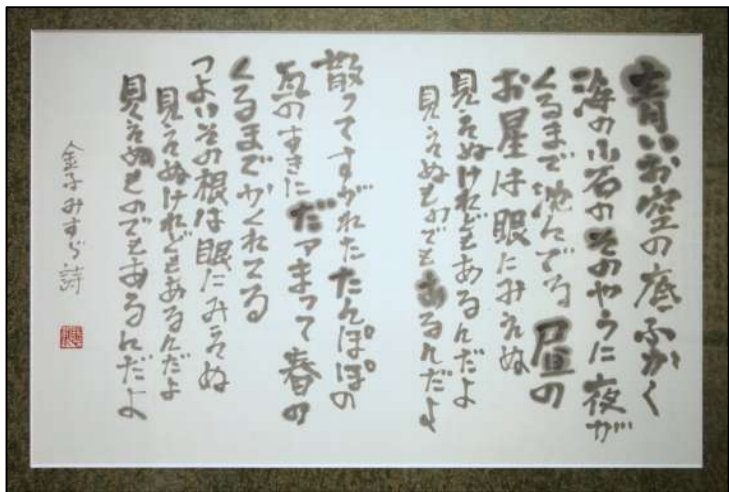
との、心境から「瞬」を選択。かなりこじ付けですが、やはり「字」を書くときは何か意味づけを考えます。

形のとりにづらい字形、書きづらい字は苦心します。しかし頭でいろいろ構想を練るもの
の大概は、思いも半分も至らず終筆です。

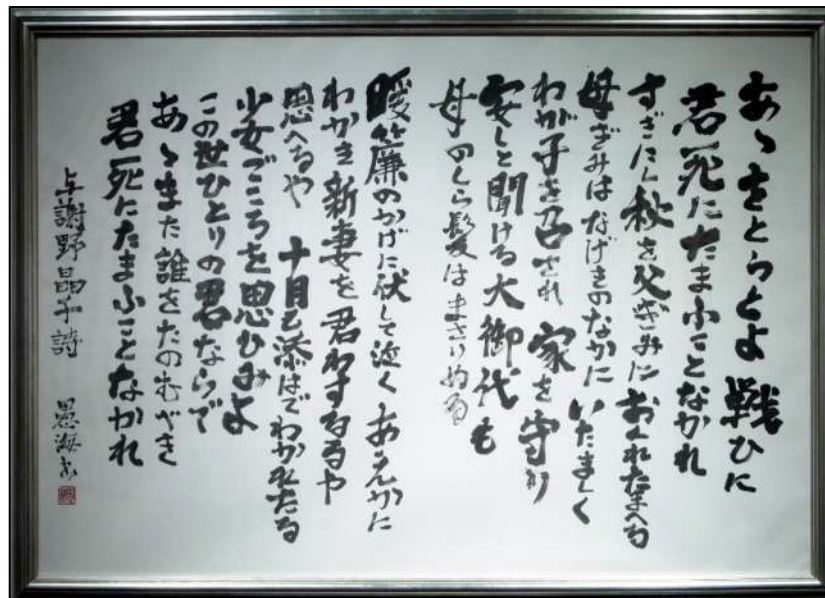
大きい字を書くときは、画室の狭さもあって一度に書けるのは三、四枚。事前に磨いた墨を大筆に…少々気弱ながら、「どっかうまく行きますように…」と祈りつつ、筆先が紙に衝いてあとは、一気に引き回す！



120cm × 120cm



全紙 1/3



全紙 2/3

星とたんぼほ
 金子みすゞ詩
 みすゞさんの詩は、ほんとうにやさしい。世間に知られるようになった頃、夜行列車に揺られて山陰の長門市仙崎へ。恋人に会いに行くような想いでした。
 小さな日本の海には、その当時の佇まいとみすゞさんの澄んだ視線が残っていました。

君死にたまふことなけれ
 与謝野晶子詩
 日露戦争、もはや百年以上昔の戦であるが、身内の無事を祈る想いは、今も昔も変わらずです。
 世界のどこかでは紛争の火玉が飛び交っています。平和への願いはどんなに小さな波動でも必ず響くものと信じています。

唯我独尊

ワンマン、独善はよろしくないでしょうが、自分を信頼し大切にしない人は、他人を思いやることができないように思います。自分を可愛がること、褒めること、そして冷静に見つめることも！



全紙 × 2

般若心経 (柳澤桂子さんの心訳)

柳澤さんの心訳には驚きました。自らの病気の苦難からここまで深い心境に至れるものかと驚嘆です。苦行僧をも凌ぐ昇天の心理ではないか思います。

般若心経の心訳千五百余字をとにかく必死に書き写しました。お経ではないのですが一文字、ひと文字間違わぬよう真剣に読み書いてゆくうちに経典に通じる境地になります。

その後、ご紹介があつて多田富雄氏の「生命の意味論」も読むことに。生命の発現、成長の神秘を分かりやすく、またこれまでの常識的な理解を大きく変える内容でありました。同じ生命科学者として共通する中でも科学と心霊界を感じさせるものがあります



觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時
照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子
色不異空空不異色色即是空空即
是色受想行識亦復如是舍利子是
諸法空相不生不滅不垢不淨不增
不減是故空中無色無受想行識無
眼耳鼻舌身意無色声香味触法無
眼界乃至無意識界無無明亦無無
明尽乃至無老死亦無老死尽無苦
集滅道無智亦無得以無所得故菩
提薩埵依般若波羅蜜多故心無罣
礙無罣礙故無有恐怖遠離一切顛
倒夢想究竟涅槃三世諸仙依般若
波羅蜜多故得阿耨多羅三藐三菩
提故知般若波羅蜜多是大神呪是
大明呪是無上呪是無等等呪能除
一切苦真實不虛故說般若波羅蜜
多呪即說呪曰
羯諦羯諦波羅羯諦波羅僧羯諦菩
提娑婆訶
般若心經

摩訶般若波羅蜜多心經

愚海謹書

全紙

摩訶般若波羅蜜多心經

般若心經は、時々お
唱えるする経典です。

写経の経験もあります
が、緊張します。

仏様に捧げる言葉で
すから、決して間違わ
ないようと、何度も
書き直しました。かな
り時間を要した作品で
す。

書き進めてゆく内に
頭の中が真っ白になっ
てゆきます。

まさに「空」。余計な
ことは考えないように
なります。経典の力で
しょう！



風盆と西馬音内盆踊り
著者：榎本いさお
絵：米倉 兌
題字：植田久男
(2010年 イズミヤ出版)



題 字

風盆と西馬音内盆踊り（題字）

郷里（秋田）で旅館を営んでいるご主人からのご依頼で、著書の題字を揮毫しました。宿泊して昔話しをしているうちに、縁は異なるもの味なものです。遠くなりつつあった故郷との縁つなぎとなりました。

ご来場ありがとうございます





会場風景



お礼の言葉

第五回個展には、ご多忙中にもかかわらず、ご来場いただき、誠にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

今回「いのち」ということを主題に制作いたしました。つくづく大きなテーマであり、さまざまな点で新たなきっかけとなりました。会期中皆様から賜りましたご助言やご感想、励ましを糧に、次回展に向け研鑽を重ねてまいります。

会期中において小生も五十歳を迎えました。わずかな時間ではありましたが、久しぶりにお目にかかれた方との歓談や近況のご報告など、フィフティのよき記念展となりました。

それから第一回から今回展までの会場として利用させていただいたアートワークスギャラリーでしたが、今年で閉廊となります。自分の個展会場としても、また他の多くの作家の方々の発表の場、交流の場として貴重な存在でありました。名残惜しい限りではありますが、またぜひ好適なギャラリーの開廊を期待いたします。

そろそろ冬支度の時季となります。皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

平成二十二年十二月吉日

植田 久男（愚海）



夜のアートワークスギャラリー